

でいろく家庭のことか載つてあるが、其違ふ特色はといふと、子供育養のことを主にして居るのであります。『お婆さんには三百文安い』これれぬ玩具『靖ちゃんの危篤とその父の禁酒』を始め子供のことについでの記事が、全紙の半分も占めて居るのでも分ります。頁は三十二頁ですが、其割に讀む所が多い様です。家の整理といふ欄に、問答をのせて、例の『月收いくらで家族幾人、この暮し方をたて、下さい』といつて來ると、此方で、其會計を立て、やるといふ風もある、近來の流行の様ですが、こんなのは一層ない方がとも思はれますが、然し、又世間の人の心はさま々です。定價は六錢、月一回 (日向志評)

短歌募集

▲課題 隨意のこと

▲べ切 七月二十日限り

▲發表 本誌文苑欄

▲賞品 三光に粗景を呈す

▲撰評 みどり短歌會

▲投稿 用紙隨意字体鮮明にして左記の所に宛て送らるべし

伊勢國河藝郡稻生村

みどり短歌會

團 樂 眞宮起雲

平和の光りを得なばこと足ると靈火にやきぬ八千卷のふみ。

梅檀のふた葉薫ずるこのあした父とあふがむ自然

賛じぬる。

うなる等が清き笑まひにほだされて哀れ五尺の髪
亂れたり。

世の光り入のひかりよ神もまたくだりて舞はむ春
の團樂や。

野うばらも麻にまじらばたは直し小さき乍らの花
や匂はむ。

黙禱のあさ戸に榮ゆるやはらぎや光りさながら神
胸に入る。

彩衣もわれ何かせむあたゝかき愛の眞玉のうた得
なば足る。

若松にみどりあせざるひかり見ぬ千歳榮あれ天を
しのぎて。

歌筆は神がゆるせし技藝なり永久につよかれ愛の
いのち毛。

地球もまた碎けざらめやこの骸なかばは闇になか
ば光りに。

フレーベル會俳句端書集

一、課題 當季雜吟 一人十句以下

一、締切 七月二十五日限り

一、披露 明治三十八年九月發行本誌文苑欄

一、賞品 天地人三座には美景を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす

一、投稿 本誌購讀者は何人にても投吟する事を
得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)

住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛
にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會 俳句掛

鹽野 奇零 宛